

地域で活動する上での心得



一般社団法人つおぐるカンパニー

代表理事 小林 誠 (元伊達市地域おこし支援員)



小林 誠

1977年1月13日生（43歳）

福島市出身 元伊達市地域おこし支援員（協力隊）

都内の大学卒業後、医療用医薬品や
医療系ソフトウェア・システムの販売や
事業企画等に従事したのち、

2013年7月より伊達市地域おこし支援員
としてUターンし3年間活動
（2013年7月～2016年6月）

2016年5月

（一社）つおぐるカンパニーを設立

2020年1月

（一社）だてものや設立
引き続き地域にて活動中

現在の主な業務

■ 法人の業務（伊達市からの受託事業）

- ふるさとティーチャリングプロジェクト
- まちなかワイナリー調査研究事業
- 移住コンシェルジュ業務

■ 個人の業務

- 担当地区の自治組織（自治会）の事務局・役員
- 学習塾講師・家庭教師
- 幼稚園の事務手伝い、パソコンの講師、その他

ここでちょっと質問です。

こんなとき、みなさんはどうしますか？

何をどこからどう取り掛かっていいか
わからないとき

赴任前の想像や聞いていた話と
違いがあるとき

周囲が自分のことを理解してくれない
サポートしてくれないと感じるとき

そして隊員の一番の悩み

何か違う、このままでいいのか・・・

3年後（任期後）どうなっているんだろう??



本日お伝えしたいこと

● 何事もお縁とタイミング

- あせらずじっくり関係づくりをすることが重要

● 相手に対して、みなさんができることは何か

- 相手目線で考える、自分のやりたいことばかりにならないようにする

隊員時代の活動

伊達市の地域おこし支援員の場合

- 2010年10月より制度導入
- 自分で課題を見つけて取り組むフリーミッション型
- 担当地区制：1人1地区（目安は小学校区、各支所に配属）
私の場合：保原町富成地区担当（約400世帯、1,200人）
- 協力員さんを設置
隊員をサポートしてくれる地域住民（町内会長など）
- 調査研究費が別途支給される（月額25,000円）
- 月1回の定例会と年1回の活動報告会がある

隊員時代の主な活動

担当地区に関わる支援活動

- ・ 地域行事への参加（運動会・お祭り・敬老会・文化祭・寿会など）
- ・ 地域のグループ活動支援（サロン・健康体操教室・女性学級など）
- ・ 地域自治組織の立ち上げとその後の事務局支援（事務局員 兼 役員）
- ・ 学校行事の活動支援（ふれあい教室・放課後運動教室・国際理解教育など）

自主企画の活動

- ・ 都市農村交流の企画運営（田舎体験ツアー・ティーチャリングツアー）
- ・ 放課後寺子屋教室（中学生対象の学習支援）
- ・ 団体 / 法人の立ち上げ（だてなまちづくり研究会・つむぐるカンパニー）
- ・ 6次化試作（柿酢づくり・ワインづくり）

1年目～：担当地区に関わる支援活動



高齢者サロン・グランドゴルフ・お母さんとの体操教室・山登り

1年目～：担当地区に関わる支援活動



地域のお祭りや行事・蛍とり

1年目～：担当地区に関わる支援活動



担当地区の小学校の活動（準職員・ほとんど用務員さん？）

1年目～：担当地区に関わる支援活動



おばあちゃんたちと、ごんぼっ葉での凍み餅づくり

2年目～：地域自治組織（自治会）の立ち上げ

担当地区にて地域自治組織（自治会）を立ち上げる運びとなり
設立準備検討委員会の段階から事務局として携わることとなった。

【担当地区の概要】 町内会：18区 約400世帯（約1,200人）

【沿革】

- ・ 2014年夏頃～ 設立準備検討委員会にて検討開始
（検討委員：町内会長・各種団体の長 約30名）
（体制・事業内容等、ワークショップも交えて検討）
- ・ 2015年3月末 富成地域まちづくり振興会の設立総会開催
- ・ 2015年4月～ 運営開始

自分は何がやりたかったんだろう…
声が掛かればとにかく顔を出す日々

今と違って県内の他の市町村には
協力隊員もほとんどいなかった状況

地域での活動で気をつけていたこと

- 自分の意見を言う前にまず聞く（自分から言い過ぎない）
- 出されたご飯は残さず食べる（残った場合は持ち帰る）
- お母さんたちに嫌われないようにする（人間関係注意）
- 自分が対応できる頼まれごととは断らない（まず雑用から）
- 話す相手や順番・タイミングに注意する（筋の通し方）
- 思いついたら試しにやってみる（まず小さく始める）
- 行政の担当者と仲良くする（担当者の業務や動きを把握する）

こんなことできたら喜んでもらえそうかな…
と試しにいろいろやってみたこと

自主企画の活動



東京の友人知人と田舎体験（あんぽ柿の皮むき・天蚕のコサージュづくり）

自主企画の活動



出荷停止中の柿を使って柿酢づくりにトライ（でも見事に失敗）

自主企画の活動



はねものの巨峰で試しにワインをつくってみる

法人の立ち上げに至った経緯

- 隊員時代からの活動はできれば続けたい…

- ➔ 2015年度より市の事業として取り組ませていただいていたふるさとティーチャリング事業を継続するためには法人格が必要（個人では受託できない）

- 地域振興に幅広く関わる受け皿がなかった…

- ➔ 地域・行政・移住者の間に入って橋渡しをしたい
- ➔ ゆくゆくは隊員の任期後の受け皿となりたい



協力隊の同僚と法人設立へ

法人の概要

【地域振興に関わる企画運営会社】

【名称】 一般社団法人つむぐるカンパニー

【主たる事務所】 福島県伊達市保原町字宮下69番地4

【設立時理事】 2名（代表理事 小林 誠 / 理事 山崎 裕恭）

【設立】 2016年5月16日

【目的】

当法人は、次に掲げる地域づくりを推進するべく、地域住民、学校、行政、その他地域に関わりを持つ各種団体と密接に連携しながら、地域課題の解決に主体的に取り組み、もって地域振興及び公益に貢献することを目的とする。

- (1) 地域に眠る資源（歴史・文化・自然環境・人々の温もり等）を活かした個性ある地域づくり
- (2) 人と人、人と社会、都市と中山間地域がつながりを深め互いに行き交う活気ある地域づくり
- (3) 子どもからお年寄りまで健康で生き生きと暮らせる心豊かな地域づくり

現在の業務までの主な流れ

2013年7月～

2014年7月～

2015年7月～

2016年7月～

1年目

2年目

3年目

任期後

田舎
体験

プレツアー（計2回）

← 隊員仲間と
お試し開催

予算化

← 本ツアー（年3回×2年）
市の事業として企画運営

他の事業
へ引継ぎ

体験ツアーの
企画やアテンド
（個人的な仕事）

寺子屋教室

ふるさとティーチャリング

← 民間の補助金
で企画運営
（計6回）

予算化

← 市の事業として
企画運営
（計10回）

法人化

市から業務受託
（法人の仕事）

★放課後寺子屋教室（週1回）

← 現在もボランティアで継続

まちなかワイナリー

★個人でワインづくり
（はねもの巨峰を委託醸造）

★企画提案

予算化

2016年11月～
市から業務受託
（法人の仕事）

移住コンシェルジュ

2017年12月～
市から業務受託
（法人の仕事）

わたしの優先順位

困っていること
してほしいこと

(個人・地域・行政にとって)



自分が
できること



自分の
したいこと

本日みなさんにお伝えしたかったこと

- まずはじっくり関係づくりから（あまり焦り過ぎない）
- とりあえずやってみる（種まき・ちょっとずつ泥臭く）
- 起業がすべてではない（選択肢は複数）
- 行政や制度の仕組み動きを理解する（予算や担当者の動き）
- 最低限の生活基盤を確保しておく（家/車/貯金/仲間）

相手に対して、みなさんが今できることは？

その積み重ねが任期後

ご清聴ありがとうございました

<お問い合わせ先>

一般社団法人つむぐるカンパニー

代表理事 小林 誠

tsumuguru.company@gmail.com

090-8566-0141

ご質問やご相談などお気軽にご連絡ください。

ご 参 考

お時間あるときにご覧ください

ふるさとティーチャリングプロジェクトの活動の様子（約5分）



伊達市 ティーチャリング 時のかけら



<https://www.youtube.com/watch?v=BcpZ4MLEh70>



ふるさとティーチャリングプロジェクトのポイント

- 首都圏在住の大学生の皆さんに寺子屋教室の先生として勉強や運動や遊びを手伝ってもらうことで子どもたちに家でも学校でもない第3の学びの場を提供する。
- 大学生が子どもたちや地域のみなさんとの交流を深めることで伊達市・福島県の魅力の再発見、第2のふるさとづくりを目指す。

寺子屋教室を通じた
子どもたちの
学びの場づくり

+

地域との交流を通じた
魅力再発見
第2のふるさとづくり

大学生と子どもたちの活動例



大学生オリジナル「世界の地理歴史すごろく」



ペットボトル空気砲を作っている様子



職業クイズで学んだことをまとめた模造紙



中学生向け寺子屋教室

大学生と子どもたちの活動例



大学生による模擬授業（映像とパソコンを駆使）



大学生による模擬授業（紙芝居形式）



大学生による模擬授業（牛乳パックで車づくり）



ミニ運動会

大学生と子どもたちの活動例



カメラ片手に子どもたちと地域を散策して地域の良いところを写真に収めてマップづくり

大学生と地域のみなさんとの活動例



田んぼで泥だらけになりながら田植えに参加



地元の農家さん宅でお母さん手作り料理を堪能



霊山太鼓祭りの練習に参加



お母さんたちと田舎料理づくり

ふるさとティーチャリングプロジェクトの活動実績

	H30年度 (5月～2月)	H29年度 (5月～2月)
開催回数	11回 うちOBOGのみの活動1回を含む	9回
開催地区	9地区 伊達・伏黒・梁川・堰本・栗野 掛田・月舘・小手・富成	8地区 掛田・泉原・石田・梁川 堰本・栗野・月舘・富成
伊達市内の 小中学生	延べ906名	延べ1,018名
首都圏の 大学生	延べ146名 18大学29学部学科 うち新規参加34名 OBOG (大学生) 38名	延べ138名 12大学17学部学科 うち新規参加28名 OBOG (社会人) 1名

50年以上使っていないなかった放棄地 (2017年3月上旬)



仲間が集まって大勢のご協力のもと



畑開墾・竹の根っこ掘り

まちなかワイナリー調査研究事業
60名で苗木定植 (2017年4月)



地元企業の組合、商工会青年部、伊達市・福島市在住の方々など
(20代30代のご夫婦、お子さま連れのご家族が大半)

まちなかワイナリー調査研究事業
地元の商工会青年部より

ワイン用ぶどう畑を引継ぎワインを委託醸造（2018年度～）



80kgのぶどう収穫

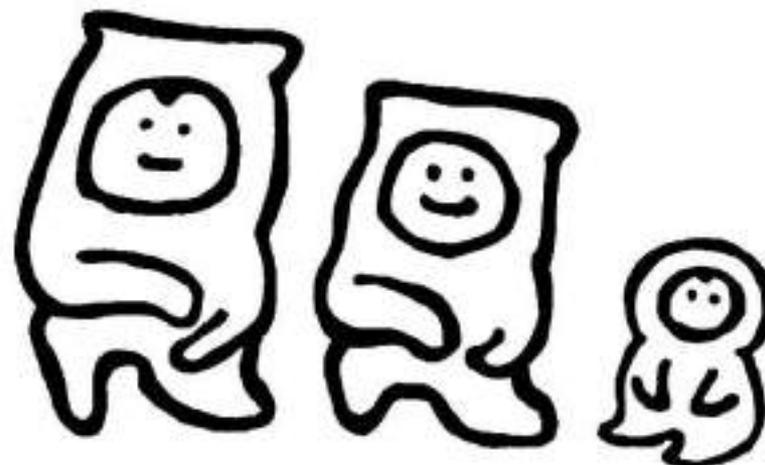


AL FIORE（アルフィオーレ/宮城県川崎町）へ
醸造委託。醸造作業にも都度参加。



街場の空き店舗にて試飲イベント

移住コンシェルジュ業務



くらしだて
移住コンシェルジュ

その他の活動

伊達もんもの家（子育て世代と高齢者交流サロン）

パソコン教室でのひとコマ



担当地区の公民館で夜の寺子屋教室（毎週1回 中学生向け）

